

大樹生命
The 18th **HEROES CUP**

関西大会

2025.12.13. [SAT] at たまゆら陸上競技場

関西大会代表者会議

開催日時：2025年12月2日(火)
20：00～
ZOOMにて



Ver.2

第18回大樹生命ヒーローズカップ関西大会代表者会議アジェンダ

- | | |
|------------------------------|-----------|
| 1. 開催挨拶 [西尾 NPO法人ヒーローズ会長] | 【参加スクール】 |
| 2. 関西大会実施要綱 [岡本 関西大会運営委員長] | 京都西RS |
| 3. 競技委員会より [吉用 関西大会運営委員] | 天理RC前裁 |
| 4. 補足説明 [岡本 関西大会運営委員長] | 洛西RS |
| 5. レフリー委員会より [島野 レフリー副委員長] | 京都プログレRFC |
| 6. 質疑応答 | KIWI'S |
| 7. 組み合わせ抽選会 | 大津RS |
| 8. ブロック毎のジャージ色確認 | 芦屋RS |
| 9. 閉会挨拶 [深尾 ヒーローズカップコミッショナー] | 伊丹RS |
| | 西神戸RS |
| | 兵庫県RS |
| | 八尾RS |
| | 茨木RS |
| | 豊中RS |
| | 花園RS |
| | 吹田RS |
| | 守口RS |

第 18 回 大樹生命ヒーローズカップ 関西大会 実施要綱

Ver.2

ヒーローズカップ関西大会を開催するにあたり、試合形式、競技方法について、下記の通り定める。

本書に記載の無い事項については、第 18 回大樹生命ヒーローズカップ開催要綱、同実施規約、同安全対策規程に基づくものとする。

1. 日程

2025 年 12 月 13 日（土）

※雨天決行の予定ですが、中止の場合、午前 6:00 に各チーム責任者に連絡いたします。

2. 会場

12 月 13 日（土） たまゆら陸上競技場〈枚方市立陸上競技場〉
（大阪府枚方市中宮大池 4 丁目 10-1）

3. 参加チーム

（公財）日本ラグビーフットボール協会の近畿各府県協会所属スクールで、1 スクール 1 チームとする。（単独チームで人数が不足している場合のみ合同チーム可能）

4. 試合形式

（1）組み合わせについて

参加チームを A ブロックから D ブロックまでの 4 ブロックに分け、各ブロックはトーナメント形式で対戦する。

（2）順位決定について

トーナメント形式の引き分けの場合は、抽選により上位の試合に進出するものとする。

5. 決勝大会への出場権について

各ブロックの1位チームに決勝大会への出場権利が与えられる。1位チームが止むを得ない理由で権利を放棄した場合には、2位チームに出場権利を付与する。

6. 競技方法

前述の通り、第18回大樹生命ヒーローズカップ開催要綱、実施規約に基づき実施する。

① ルールは（公財）日本ラグビーフットボール協会制定の『令和4年改訂版 競技規則 U-12 ミニラグビー・高学年』による。

② 試合の組み合わせは抽選にて行う。

③ タイムキーパー制で行う。

④ 規定のチーム構成人数未満による試合

1チームにつき規定の人数（9名）より少ないプレーヤーによる試合は、試合途中において怪我や病気により出場選手が8名まで許可される。但し、試合開始時点では9名の健康な選手を揃えなければならない。人数の足りないチームが他のチームから選手を借りて試合を行う場合は、人数の足りないチームは不戦敗として、交流試合として試合を実施する。

⑤ ブリーフィングについて

伝達事項は代表者会議で各チームへお伝えします。

※キャプテン会議は代表者会議と同時刻に本部前にて開催。

⑥ ドレスチェックについて

開会式終了後、第1試合のチームから写真撮影→ドレスチェックの流れで行う。

※チェック項目

- ・スパイク（取り換え式ポイント及び金属がついていないスパイク）
- ・ヘッドキャップの確認 ・WR 認定ゴーグル、着用サポーターの確認
- ・爪（爪が長い選手は切ってから再チェックを受けること） ・服装

⑦ 服装

寒さ対策として、長袖アンダーウェア、ロングスパッツを着用しての出場を認める。また、グローブ（指先のないもの）の着用は可とする。但し華美なロングスパッツは避け、短パン同系色または白・黒・紺とする。

マウスガードは、出来るだけ着用することが望ましい。

ヘッドキャップの後頭部のヒモが長い場合は必ず中に入れ込むこと。

⑧ゴーグルの取り扱いについて

ワールドラグビーの承認マークが付いたゴーグルであれば着用を認める。

他のスポーツ用ゴーグルを着用しての出場は一切認めません。

⑨ベンチの位置・キックオフ・陣地について

ベンチの入れ替えをスムーズに行う為、1グラウンドに対してベンチは4カ所作り、空いているベンチは次戦のチームベンチとする。

ベンチの位置は、スケジュール表に記載。（A面・B面共に、スケジュール表の左右のチーム名がベンチの左右）それぞれの前半の陣地となる。全てグラウンドに向かっての左右とする。

バックストレート側のベンチ（陣地）のチームが前半キックオフを行う。

ベンチに入れるのは、登録された、試合責任者を含むコーチ（5名まで）、セーフティアシスタント1名（※SAは所定の位置に待機）、選手のみとする。チームカメラマン（2名まで）は腕章を着用していれば撮影禁止エリア以外の立ち入りは許可される。

試合中は、ベンチからプレーヤーへの指示は、一切禁止とする、指示があったと判断した場合は、レフリーまたは大会役員が注意する。該当者は、それに従わなければならない。

⑩セーフティアシスタント（1名）

セーフティアシスタントは、必ず有資格者が対応する。（当日資格証確認）

チームに有資格者を用意できない場合は、前日までに大会本部に申請すること。

セーフティアシスタントは、SAビブスを着用し、タッチラインの外でアシスタントレフリーの邪魔にならない位置で待機すること。選手が負傷した際には、速やかにグラウンド内に入り、必要な対応をすること。ベンチに入ることを禁止する。

セーフティアシスタントは、選手に対してプレーの指示をしてはならない。

⑪ウォーター（2名）

ウォーター係（ビブス着用）は控え選手（3名まで）が対応すること。

試合中のウォーターブレイクは前半・後半共に、試合時間の半分を目安にレフリーの判断により行う。

感染症対策の一環でスクイズボトルなどの使い回しは禁止し、選手1人あたり1つのボトルが必要です。その際、あらかじめカゴや大きなカバンを持ち込み、スムーズに給水ができる準備を行って下さい。

ウォーターは、Waterビブスを着用する。（ビブスはチームで用意すること）

⑫チームカメラマン（2名まで）

チームカメラマンは、配布する腕章を見えるところに着用しチームカメラマンであることがわかるようにする。

A面とB面の間の中央部分はオフィシャルカメラマンのみ撮影を許可し、チームカメラマンの立ち入り、撮影は禁止とする。

⑬試合開始

コイントスは行わない。⑨のベンチの位置によりキックオフ・陣地を決定する。

スケジュール表のスタート時刻＝キックオフの時刻とする。

キックオフの2分前には、ベンチ横のセンターライン位置（試合入場待機場所）に入場できるように待機すること。

⑭試合時間

各ブロックともに **12分ハーフ（ハーフタイム3分）で実施する。**

A面、B面ともに同時にキックオフを行うので、本部席より試合開始のアナウンス、ハーフタイム、試合終了の合図を行う。原則としてロスタイムによる試合時間延長は行なわない。

タイムキーパー制を採用し、大会本部で時間管理を行うが、事情によりレフリーとタイムキーパーとの間に大きな誤差が生じた場合は、大会本部よりレフリータイムで実施する旨をレフリーに伝え、レフリーより両キャプテンに **【レフリータイムで実施する】** ことを説明の上、レフリーの判断、責任で終了する。

⑮ゴールキック

トライ後のゴールキックは、実施しない。

⑯ボール

試合に使用するボール（4号球）は、大会本部にて用意する。

⑰選手交代について

選手の交代は、交代人数を制限しない。また、一度交代した選手の再出場を認める。

プレー中の選手交代は、1度の交代を3人までとし、それ以上の場合は、2回以上に分けて交代する。

選手交代時は、競技役員に交代する選手の背番号（ない場合は、名前）を申告し、レフリーの指示に従って交替すること。

後半開始時の交代については人数制限を設けない。また、競技役員への申告も不要とする。

負傷時の交代については、レフリーの指示により交代選手を入れる。この場合は、競技役員への申告は不要。

⑱一時退出（シンビン）について

シンビンでの一時退出は、3分間とし、競技役員が計時する。

⑲負傷時の対応について

プレー中に選手が負傷した場合、レフリーは試合を中断しドクターを呼び、負傷状況を確認する。ドクターが試合続行を認めない場合は、レフリーは速やかに当該チームに選手交代を要請する。

その際、自チームのセーフティアシスタントからの助言（例、まだやれます…等）は禁止とし、決してドクターの判断に異を唱えてはならない。

頭部打撲により、一時退場をしたプレーヤーは例え脳震盪・脳震盪疑いではないとドクターより判断されたとしても、安全を第一優先とする為、当該試合で再出場は認めない。しかし、マッチドクターにより脳震盪・脳震盪疑いではないと判断された場合は、次試合以降の試合には出場できる。

7. アフターマッチファンクションの実施

本大会では、試合毎にアフターマッチファンクションを実施する。

- ・両キャプテン・両コーチからの相手チームへのリスペクト
- ・レフリーからの講評 ・エール交換

8. レフリーについて

レフリー、アシスタントレフリーは、大会本部で各協会公認レフリーを手配する。

第3ARは、競技役員が担当する。

※大会当日、他のカテゴリーの試合の重複により十分にレフリーが確保できない場合、アシスタントレフリーをチームより出していただく場合がありますので、ご了承ください。

9. 試合記録について

レフリー用のスコアカードは、大会本部により用意した所定のものを使用しトライ数を記録する。

記録役員は、公式記録票にトライ数、得点、反則数を記録する。

試合終了直後、レフリー、記録役員、両チームの担当コーチが点数を確認し、レフリーはスコアカードに必要事項を記入・署名後、記録役員に渡し、記録役員が本部席に提出。本部席役員が公式記録票にスコアカードを貼付する。

10. ベンチ、観戦のマナーについて

本大会では、試合中において、コーチ、保護者、観戦者からプレー中の選手への指示は、一切禁止とする。各チームの試合責任者は、チーム内関係者に周知すること。

11. ウォーミングアップエリアの利用について

全てアンツーカー部分でのアップとなるため、全チームウォーミングアップは必ずアップシューズで行うこと。

次の試合のチームがトラック内の半円エリアでアップを行える。それ以外のチームは 400m トラックや空いているスペースで譲り合って使用すること。

試合直前までアップシューズを履いて、ベンチ入りした時にスパイクに履き替えます。前の試合中でも次チームのベンチは空いていますので、時間配分を考えて試合開始 2 分前までに試合入場待機場所に集まれるようにお願いします。

本部席前のメインストレートではアップはご遠慮ください。

12. 救急車の要請について

試合中の負傷により、救急車を要請する場合は、マッチドクターから大会役員を通じて要請するので、チーム関係者は、直接要請しない。

試合中以外で救急車要請する場合、必ず、大会本部を通じて要請すること。

13. 駐車場について

駐車場は有料パーキングをご利用ください。第 1・第 2 駐車場で約 400 台収容できますが、総合体育館でのイベントにより、駐車場が満車になる可能性もありますのでご了承ください。また、お帰りの出口は必ず大混雑しますので、ご了承ください。

近畿地区大会の際に、近隣駐車場を含め、約 900 台が満車状態となり、渋滞の原因と近隣駐車場からの苦情も会場に届いております。

なるべく、チーム内で調整して頂き、乗り合いで会場へお越しください。

駐車券を競技場受付及び総合体育館受付で割引が受けられます。

大型バス・マイクロバスは事前申請制になります。12 月 5 日（金）までに申請してください。バス駐車券を発行します。

または、京阪電車／枚方市駅または樟葉駅下車→バス

JR 学研都市線／津田駅または長尾駅下車→バス

14. 当日代表者会議について

12月13日（土）たまゆら陸上競技場での代表者会議は10時から開催致します。

会議出席者は本部席までにお集まりください。

代表者会議が長引くこともありますので、**10時30分から全チーム揃っての開会式は**、代表者会議に参加するコーチ以外で開会式整列の準備をお願いします。

11時からSA会議を開催します。SAを担当するコーチは必ず参加お願い致します。

※SAの認定証の確認を行いますのでご持参ください。

15. その他注意事項

チーム待機場所・荷物置き場はグラウンド周辺（スタンド下やテント設置可能エリア）となります。

貴重品の管理は各チームの責任でお願いします。

グラウンド内には水以外は持ち込まないようにお願いします。スポーツドリンク不可。

グラウンド内は飲食禁止。（お菓子・ガム・アメ含む）

食事をとる場合はスタンド下やテント設置可能エリアまたは、スタンドのチーム割り当て場所をお願いします。

競技場内は全面禁煙（電子タバコ、加熱タバコを含む）

ゴミ等はチームで責任をもって持ち帰ってください。

お帰りの際は、荷物置場の片付け、ゴミのチェックをした後、必ず本部席に帰ることを報告に来てからチームでまとまって退場してください。

第18回大樹生命ヒーローズカップ関西大会 12/13

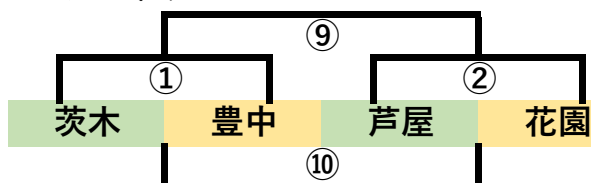
9:30	～	入場開始
10:00	～	代表者会議・キャプテン会議
10:30	～	開会式（全チーム整列）
10:40	～	写真撮影（試合開始時間が早いチームより撮影後ドレスチェック）
11:00	～	SA会議

12分-3分-12分				Aコート				Bコート						
	11:30	～	11:42	①	茨木	A	対	A	②	芦屋	B	対	B	花園
	11:45	～	11:57			①		④			⑤		⑧	
	12:00	～	12:12	③	兵庫県	A	対	A	④	八尾	B	対	B	吹田
	12:15	～	12:27			②		③			⑥		⑦	
	12:30	～	12:42	⑤	守口	A	対	A	⑥	天理	B	対	B	洛西
	12:45	～	12:57			①		④			⑤		⑧	
	13:00	～	13:12	⑦	プログレ	A	対	A	⑧	京都西	B	対	B	西神戸
	13:15	～	13:27			②		③			⑥		⑦	
	13:30	～	13:42	⑨	①勝	A	対	A	⑩	①負	B	対	B	②負
	13:45	～	13:57			①		④			⑤		⑧	
	14:00	～	14:12	⑪	③勝	A	対	A	⑫	③負	B	対	B	④負
	14:15	～	14:27			②		③			⑥		⑦	
	14:30	～	14:42	⑬	⑤勝	A	対	A	⑭	⑤負	B	対	B	⑥負
	14:45	～	14:57			①		④			⑤		⑧	
	15:00	～	15:12	⑮	⑦勝	A	対	A	⑯	⑦負	B	対	B	⑧負
	15:15	～	15:27			②		③			⑥		⑦	

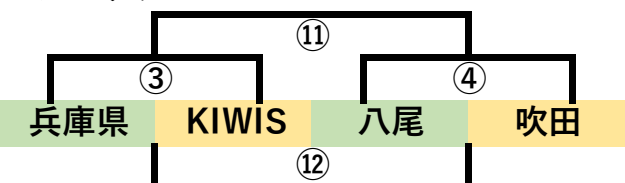
15:40

閉会式

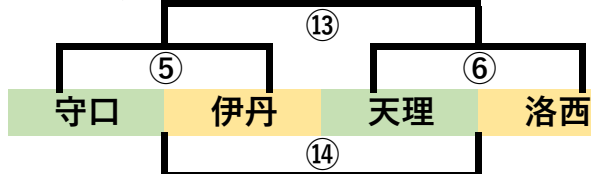
Aブロック



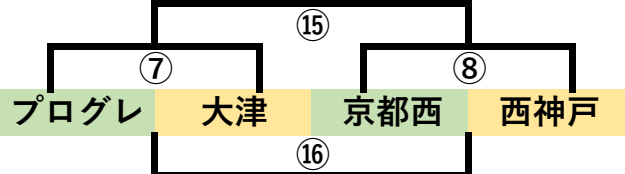
Bブロック



Cブロック



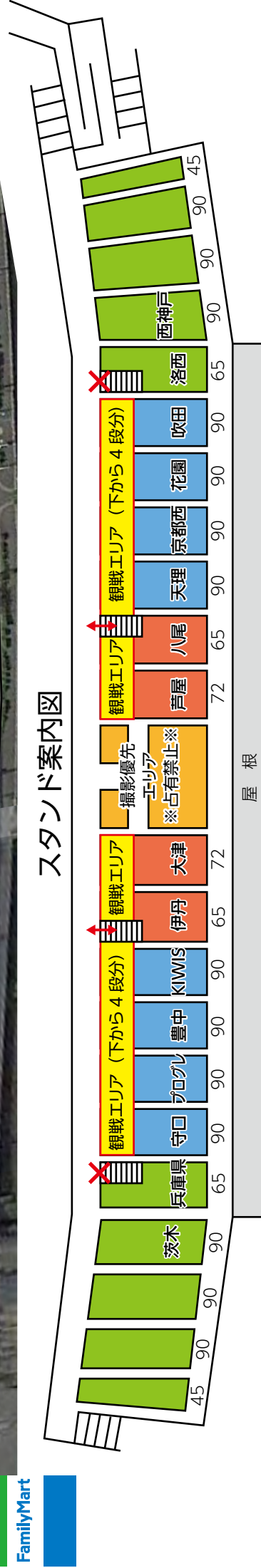
Dブロック



会場案内図



スタント案内図



18
マテリアル商事
(株)コンパネ屋
ホームセンター

40

役員駐車場

東高野街道

第2駐車場



第1駐車場

枚方市立総合体育館

役員駐車場は
役員駐車券をボンネットに
必ず置いて駐車をお願いします。

駐車場に限りがあります。
なるべくチーム内で
乗り合いでの来場を
お願い致します。

18

枚方市立陸上競技場
34分車 - 自宅

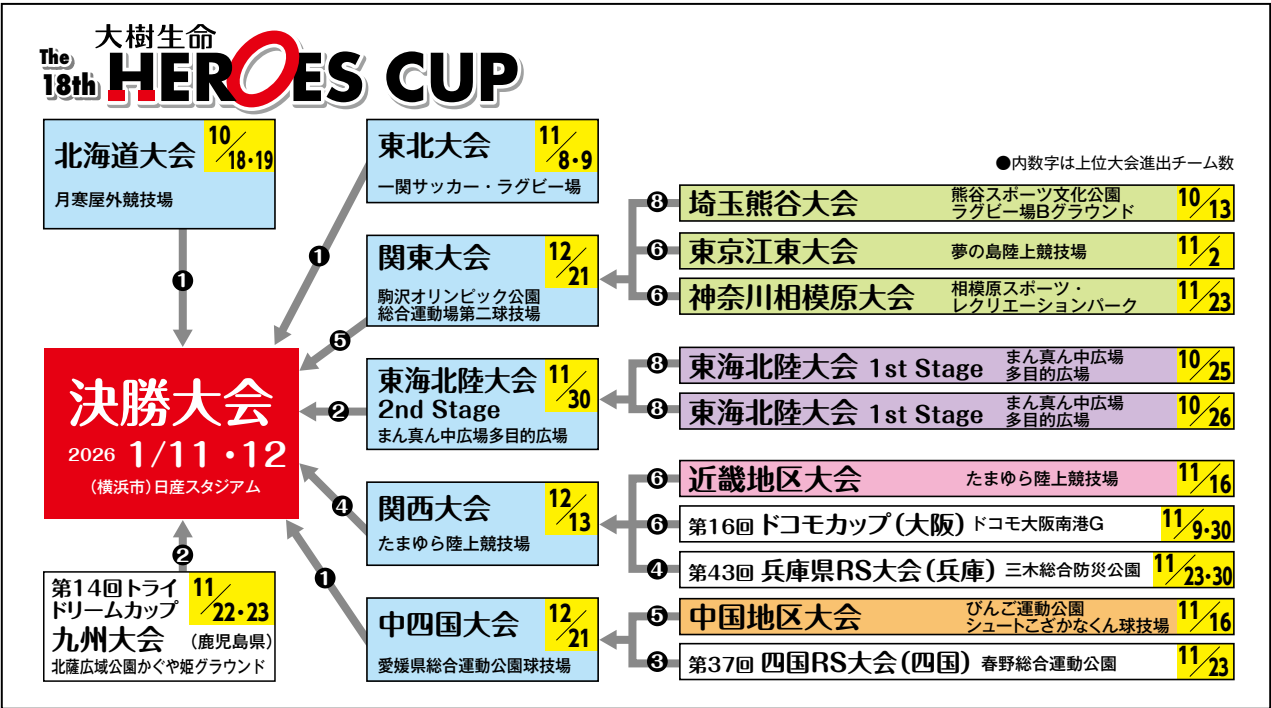
近隣のファミリーマート・ダイソーの駐車場には絶対に駐車しないでください。運転手がいるということでも大変迷惑をかけることになります。保護者の方々への周知徹底をお願いします。

第18回大樹生命ヒーローズカップ 開催要綱

2025.10.1.

1. 主催	2
2. 共催	2
3. 主管	2
4. 後援	2
5. 目的	2
6. 日程/会場	2
7. 大会組織	2
8. 参加資格	2
9. 参加チーム	2
10. 競技方法	3
11. 参加費	3
12. 各表彰	3
13. 承諾書	3
14. 障害者対応について	3
15. その他	3
●実施規約	4
1. 出場チームの構成について	4
2. 選手登録の方法	4
3. 選手の交替・入替え	4
4. シンビン・退場（競技規則第10条等参照）	4
5. 試合前受付	4
6. 競技時・ハーフタイム時の諸注意	4
7. 安全対策、脳震盪の報告義務、その他	5
8. 負傷時の対応について	5
9. 救急車の要請について	5
10. 規定のチーム構成人数未満による試合	5
11. ドレスチェックについて	5

12. 服装の統一について	5
13. プレーヤーの着こなし	6
14. ラグビーマナー	6
15. セーフティアシスタント（SA）について	6
16. 試合中のウォーターブレイクについて	6
●安全対策規程	7
1. 安全対策に必要な人員	
2. 試合環境の整備	
3. 参加チームの安全対策について	
4. レフリー	
<レフリングの指針>	8
1. 安全を最優先	
2. 厳格な判定	
3. コンテストの正確な判定	
<レフリングガイドライン>	8
1. 危険なプレーについて（安全のために）	
2. キックオフ	
3. スクラム	
4. ラインアウト	
5. ペナルティキック	
6. キック	
●個人情報及び肖像権に関わる取扱いについて	9
●参加承諾書	10



1. 主 催 NPO法人ヒーローズ
2. 共 催 (決勝大会) 横浜市・神奈川県
3. 主 管 ヒーローズカップ実行委員会
4. 後 援 スポーツ庁
5. 目 的 「こども世代へのラグビー普及と育成」を基本理念とし、ミニ・ラグビーの全国規模の交流試合を行い、ラグビーの試合を通じて健全な精神と身体を養うことを目的とし、参加する全ての子どもたちに、夢と希望と感動を与えられる大会を目指す大会となる。
また、ヒーローズカップは優勝を目標とするが目的ではなく、小学生が勝ったり負けたりする体験を通して、悔しさうれしさを感じ、思いやる心が育まれ成長していくことを目的とする。
6. 日程/会場

北海道大会	2025年10月18日・19日	月寒屋外競技場
東北大会	2025年11月8日・9日	一関サッカー・ラグビー場
埼玉熊谷大会	2025年10月13日	熊谷スポーツ文化公園 ラグビー場B
東京江東大会	2025年11月2日	夢の島陸上競技場
神奈川相模原大会	2025年11月23日	相模原スポーツ・レクリエーションパーク
関東大会	2025年12月21日	駒沢オリンピック公園総合運動場第二球技場
東海北陸大会 (1st Stage)	2025年10月25日	まん真ん中広場多目的広場
	2025年10月26日	まん真ん中広場多目的広場
東海北陸大会 (2nd Stage)	2025年11月30日	まん真ん中広場多目的広場
近畿地区大会	2025年11月16日	たまゆら陸上競技場
関西大会	2025年12月13日	たまゆら陸上競技場
中国地区大会	2025年11月16日	びんご運動公園シュートこざかなくん球技場
中四国大会	2025年12月21日	愛媛県総合運動公園球技場
決勝大会	2026年1月11日・12日	日産スタジアム
7. 大会組織
 - (1) 本大会の開催に際しては、大会実行委員会を組織する。
 - (2) 大会実行委員会には、委員長、副委員長、委員を任命する。
 - (3) 各大会毎に運営委員会を組織する。
 - (4) これらの組織をもって、円滑な大会運営を図ることとする。
8. 参加資格 次の(1)~(3)に該当する者からなるチーム
 - (1) 公益財団法人日本ラグビーフットボール協会に2025年度のチーム登録が完了した各都道府県ラグビーフットボール協会所属のラグビースクールにおいて「プレーヤー」として2025年度の個人登録が完了した小学校6年生および5年生。
 - (2) 保護者が大会への参加を承諾した選手であること(承諾書提出)。また、大会参加にあたっては指導員等の引率者を必要とする。
 - (3) 出場チームから公益財団法人スポーツ安全協会の「2025年度スポーツ安全保険」への加入が完了した者。
9. 参加チーム
 - (1) 1スクール1チームとする。
 - (2) 合同チームのエントリーを可能とする。
 - (3) 北海道大会は北海道のチーム。
東北大会は東北地方のチーム。
関東大会は関東地方および近隣(静岡県を含む場合がある)のチーム。
東海北陸大会は、東海北陸地方および近隣(長野県を含む場合がある)のチーム。
近畿地区大会は、大阪・兵庫を除く近畿地方のチーム。
関西大会は、大阪推薦6チーム・兵庫推薦4チーム・近畿地区大会から6チームの計16チームで行う。
※関西大会には、大阪府からはドコモカップの上位6チーム。兵庫県からは兵庫県ラグビースクール大会の上位4チームをそれぞれ推薦する。

中国地区大会は中国地方のチーム。

中四国大会は、中国地区大会から5チーム・四国推薦3チームの計8チームで行う。

※四国からは四国ラグビースクール大会の上位3チームを推薦する。

決勝大会は、北海道大会1チーム、東北大会1チーム、関東大会5チーム、東海北陸大会2チーム、関西大会4チーム、中四国大会1チーム、九州推薦2チームの計16チームで行う。

10. 競技方法 (1) 公益財団法人日本ラグビーフットボール協会制定の『令和4年改訂版 U-12 ミニラグビー競技規則』による。
(2) 組み合わせは各大会毎に抽選にて決定する。
(3) 試合時間は、各大会毎に異なるが、1日2～4ゲームを行い、1日の総ゲーム時間は60分を超えないものとする。
11. 参 加 費 参加チームから大会運営費の一部として、**全ての大会毎 (1st・2nd Stage毎) に15,000円を徴収。**
(例：東海北陸大会1st→2nd→決勝大会へ参加の場合は合計45,000円となる)
※第18回大会より参加費改定
※決勝大会を含む全ての大会に参加する遠征費・交通費は各チームでの負担とする。
決勝大会への遠征費補助については、補助がない可能性があることをご承知おきください。
12. スポーツ庁長官賞 決勝大会優勝チームへスポーツ庁より『スポーツ庁長官賞』を贈呈する。(昨年度実績)
横浜市長賞 決勝大会優勝チームへ横浜市より『横浜市長賞』を贈呈する。(昨年度実績)
13. 承 諾 書 ヒーローズカップは、ラグビーの試合を通じて健全な精神と身体を養い、中学・高校・大学とラグビーを生涯スポーツとして続けることを目的としており、下記の事項を承諾頂き、署名・捺印の承諾書提出が必要です。
1. 選手自らが大会参加を望んでいること。
2. チームや仲間の為などとして指導者及び保護者が参加を強く求めないこと。
3. 怪我をしている、又は、マッチドクターに競技続行不可能と判断された場合、当該選手は当日の試合には出場することができない。
4. 選手が過度な体重増減量や過密な練習で疲労が蓄積していない状態であること。
5. 選手として心身共に大会に参加できる万全の状態であることを確認し、保護者として承諾できる場合には、承諾書を提出する。
14. 障害者の試合観覧および対応について
障害者が大会に来場された際には障害者用の観覧スペースを設ける。
補助、介助が必要な場合は障害の程度に応じて人員を配置する。
15. そ の 他 各大会毎にマッチドクターを配置する。負傷に対して応急処置は行うが、大会主催者が以降の責任は負わない。マッチドクターに競技続行不可能と判断された場合、当該選手は当日の試合には出場することができない。
選手の健康管理には十分注意すること。選手は健康保険証を持参すること。

第18回 大樹生命ヒーローズカップ 実施規約

1. 出場チームの構成について

各大会（地区大会、決勝大会）出場に必要な選手以外のスタッフについては下記の通りとする。

（1）大会に出場するチームのベンチ入りできるスタッフの構成は、以下の通りとする。

- | | | |
|------------------|----|------------------------------|
| ①試合責任者（必須） | 1名 | 〈試合出場チームの責任者〉 |
| ②セーフティアシスタント（必須） | 1名 | 〈セーフティアシスタント（SA）資格保有者〉 |
| ③監督・コーチ（任意） | 任意 | 〈グラウンド（ベンチ）へ入る最大人数は各大会で規定する〉 |

※①、②、③のいずれかにスタートコーチ以上の指導者を大会に帯同させなければならない。

※大会当日にスタートコーチ以上の指導者・セーフティアシスタントが帯同できない場合その旨を大会本部に伝えること。

（2）参加チームから運営スタッフを選出する場合は下記の条件を満たすこと。

- | | | |
|-----------------|----|------------------------------|
| ①レフリー（随時） | 1名 | 〈ミニラグビーレフリー（MRR）以上〉 |
| ②アシスタントレフリー（随時） | 1名 | 〈ミニラグビーレフリー（MRR）以上〉 |
| ③競技補助役員（随時） | 任意 | 〈競技委員の補助業務（第3AR、記録、ボールボーイ等）〉 |

2. 選手登録の方法

- （1）各大会への上場選手登録は、「第18回大樹生命ヒーローズカップ開催要綱」の「8. 参加資格」の（1）、（2）、（3）の要件を満たす者の中から人数制限なく登録できる。
- （2）ヒーローズカップへの上場推薦チームを選考する大会を含む各大会において、チームの移籍をして次の大会へ出場することは認めない。選手は、ヒーローズカップへの上場推薦チームを選考する大会を含むどれかの大会で、最初に出場登録をしたチームで最後まで出場登録することとする。二重登録も認めない。
- （3）上記選手登録に疑義が生じた場合、大会実行委員会にて出場を取り消す場合がある。違反して選手登録又は出場をした場合、次回から当該チームの参加を認めないことがある。

3. 選手の交替・入替え

- （1）選手の交替・入替えの際には、監督・コーチ又は選手自身が当該試合担当の第3ARに申し出、第3ARの指示に従って交替・入替えを行う。
- （2）一度の交替・入替えは3名までとする。但し後半開始時は交代・入替え人数の制限はなく、第3ARへの申し出も不要。
- （3）いったん交替により退いた選手の再出場も認める。

4. シンビン・退場（競技規則第10条等参照）

- （1）シンビン（一時的退出）となったプレーヤーは、本部席前の所定の場所に待機しなければならない、レフリーが許可するまで、フィールド・オブ・プレーに入ってはならない。
- （2）シンビンの時間は試合時間により異なり、ハーフタイムの時間は含まれない。シンビンの時間は次のプレーが再開した時点から計測し、第3AR及び本部席で時間の管理を行う。
※15分～13分ハーフ＝4分・13分～9分ハーフ＝3分・8分～7分ハーフ＝2分（ストレートの場合も同様）
- （3）同一試合で2回目のシンビンを受けた選手は、そのまま退場となりゲームに再出場することはできない。
また、各大会共通で次の1試合（上位大会含む）は自動的に出場停止となる。
- （4）シンビンの累積による退場以外の事由（不行跡等）で退場となった選手は、各大会運営委員会で処分を決定する。
なお、各大会共通で次の1試合（上位大会含む）は出場停止となる。

5. 試合前受付

- （1）試合当日、各大会競技委員が指定する時間に試合責任者は代表者会議に出席し、出場選手およびスタッフに関して、事前登録通りであるかを報告すること。
- （2）各大会運営委員会より当日必要な伝達を行うので、代理の者でなく必ず試合責任者本人が出席すること。
- （3）代表者会議終了後、各大会のスケジュールにより、ドレスチェック・装身具のチェックをレフリーが行う。このドレスチェックを受けていない選手は試合に出場できない。
- （4）チームからレフリー、アシスタントレフリー、競技補助役員を選出した場合、必ず大会当日のブリーフィングに参加し、レフリー委員、競技委員に申し出、当日の割当を確認すること。

6. 競技時・ハーフタイム時の諸注意

- （1）試合に使用するボール（4号球）は、大会本部にて用意する。
- （2）試合時間はタイムキーパー制で行う。（キックオフ前半・後半の開始は、本部からのキックオフの合図後。ノーサイドは本部からの合図の後、デッドになった時点。ロスタイムなし。）
但し、負傷対応等で継続して3分を超える試合中断が発生した場合、競技委員のグラウンド責任者が、「レフリータイム」の判断を行い、レフリーよりその旨を両チームキャプテンに伝達し、レフリーの責任で終了する。

- (3) 両チームのジャージが似ている場合は、競技委員とレフリーがチームと相談のうえ対応を決定。
- (4) 試合中は、チームは所定のベンチエリア内で待機する。試合中チーム関係者はうろたえないこと。ゲームの進行とともに移動して応援をしたり、指示をしないこと。
- (5) ベンチ内であってもチーム関係者は、試合中のプレーヤーに対する指示を禁止とし、適切な応援を心がけること。
- (6)グラウンドへ水を持ち込む場合には安全な容器を用いること。(ビン等は不可)
- (7) 同点で試合終了になり、次戦進出チームを決定しないといけない場合は、抽選にて次戦進出チームを確定する。その際、アフターマッチファンクション終了後、抽選にはチームキャプテン1名、当該試合レフリー、大会実行委員の4者で公平に抽選を行う。(リーグ戦の場合は順位確定方法の全てが同ポイントであれば抽選を行う)
- (8) 試合終了後、アフターマッチファンクションを実施。
 - ・キャプテンによる相手に対する感想、担当コーチからの講評、レフリーからの講評
 - ・エール交換
 - ・握手

7. 安全対策、脳震盪の報告義務、その他

- (1) 試合参加にあたっては、あらかじめ健康診断を受ける等、プレーヤーの健康管理に充分配慮すること。
- (2) 脳震盪を起こした疑いのある、あるいは脳震盪と診断された選手は退場させる。試合中に脳震盪で退場したプレーヤーが出た場合には、チーム責任者は所定の用紙によって報告の義務がある。
- (3) 脳震盪を起こした疑いのある、または、脳震盪と診断された選手は、必ず“ワールドラグビー脳震盪ガイドライン”にある「段階的競技復帰プロトコル (GRTP)」に従って復帰すること。
- (4) 頭部打撲により、一時退場をしたプレーヤーは例え脳震盪・脳震盪疑いではないとドクターより判断されたとしても、安全を第一優先とする為、当該試合で再出場は認めない。しかし、マッチドクターにより脳震盪・脳震盪疑いではないと判断された場合は、次試合以降の試合には出場できる。
- (7) インフルエンザ又は新型コロナ等伝染性疾患と診断もしくは認められる選手は、各チームの責任において出場を辞退すること。
- (8) 試合中のドクターの投入はレフリーが判断するが、担架の使用についてはドクターの判断に従う。

8. 負傷時の対応について

プレー中、選手が負傷した場合、レフリーは試合を中断し、ドクターを呼び、負傷状況を確認する。ドクターが試合続行を認めない場合は、レフリーは速やかに当該チームに選手交代を要請する。その際、自チームのセーフティアシスタントからの助言(例、まだやれます…等)は禁止とし、決してドクターの判断に異を唱えてはならない。
レフリーは、選手の安全のために、プレーの継続が不可と認めたプレーヤーの出場を制限することができる。

9. 救急車の要請について

試合中の負傷により、救急車を要請する場合は、マッチドクターから大会役員を通じて要請するので、チーム関係者は、直接要請しない。
試合中以外で救急車要請する場合、必ず、大会本部を通じて要請すること。

10. 規定のチーム構成人数未満による試合

1 チームにつき規定の人数(9名)より少ないプレーヤーによる試合は、試合途中において怪我や病気により出場選手が8名まで許可される。但し、試合開始時点では、9名の健康な選手を揃えなければならない。揃えられない場合は当該チームを不戦敗とする。その場合、他のチームから選手を借りて交流試合として試合を実施することができる。

11. ドレスチェックについて

- (1) 各大会の指定された時間にレフリーが参加選手全員のドレスチェックを行う。
- (2) 爪・スパイクチェック・ヘッドキャップ/ゴーグルのワールドラグビー承認マークの確認・サポーターの確認。
※ヘッドキャップは、ワールドラグビー承認マーク以外に、IRB承認マーク、WORLD RUGBY TRIAL も認める。

12. 服装の統一について

- (1) ジャージ・パンツ・ストッキングは、チーム全員統一されていることが基本ではあるが、コンバインドチームでの参加の場合、パンツ・ストッキングの統一までは求めない。
- (2) スパイクについて／非金属製の固定式スタッド及びブレードタイプのものとし、取替え式スタッドの使用は禁止する。
- (3) ジャージ、その他の用具に血液が付着した場合には、直ちに切り替えなければならない。ジャージの損傷、血液の付着に対応するためスペアージャージを準備すること。
- (4) プレーヤーは必ずヘッドギヤを着用すること。(U12 競技規則第4条3.c)
- (5) プレーヤーに合ったマウスガードを装着することを強く推奨する。
- (6) 男女共ロングスパッツの着用を認める。但し華美なロングスパッツは避け、短パン同系色または白・黒・紺とする。
- (7) 指先を切った手袋のみ着用を許す。指先まで覆う手袋は着用できない。

- (8) ワールドラグビーの承認マークが付いたゴーグルであれば着用を認める。
- (9) 試合に使用するジャージには背番号があるものを推奨する。試合中レフリーやARからのプリベントを容易にし、交代時の簡素化をはかる為。

13. プレーヤーの着こなし

- (1) 参加選手はラグビープレーヤーとしてふさわしい服装、身だしなみを心がける。
- (2) 選手は以下の着こなしを遵守すること。レフリーや競技委員から指摘される前に、各自、各チームで直すこと。
 - ① スtockingはきちんと上げる。試合中にずり落ちないようにテープ等できちんと止めること。
 - ② パンツの上に出たジャージは、常に注意してパンツの中に入れる。
 - ③ ジャージのエリを内側に折り込まない。
 - ④ ジャージのソデを極端にたくし上げたり、テープで止めたりしない。
- (3) ドレスチェック時に、レフリー及び競技委員が服装、スタッド等の確認を行う。選手は、レフリーと競技委員の指示に従うこと。
- (4) ドレスチェックで不許可となったものを競技区域で着用していた場合には、その時点で「競技規則」第4条7により退場とするが、交代選手の出場を許可する。退場した選手は、服装を正したら、レフリーの許可を得て競技に復帰できるものとする。
- (5) 服装規定に関して不明な点は事前に各大会運営委員会まで問い合わせをする等、当日のドレスチェックの際にトラブルが起らないよう、事前徹底、再確認を充分しておくこと。

14. ラグビーマナー

- (1) レフリーへの批判、選手への感情的発言・暴言・セルフジャッジ等々非紳士的言動は厳禁する。
選手以外の監督・コーチ・その他スタッフ、保護者、応援団も同様に禁ずる。
試合中は、建設的な応援・励ましを心がけ、レフリー・両チームの選手への敬意と尊敬の念を忘れないこと。
試合中において、コーチ、保護者、観戦者からプレー中の選手への指示は、一切禁止とする。
- (2) 各大会の会場（グラウンド内、更衣室とグラウンドとの往復等を含む）では、選手、指導者、スタッフ、保護者等全員が公共空間でのマナー保持に充分注意すること。
- (3) ゴミ（グラウンド内ばかりでなく更衣室等のゴミも含む）は、会場内のゴミ箱に捨てず、必ず各自、各チームで持ち帰ること。チームはゴミ袋を用意して、すべてのゴミを持ち帰ること。
- (4) 会場内（グラウンド・駐車場等）は、許可された喫煙場所がある場合を除いて全面禁煙とする。
- (5) 会場周辺の公道への違法駐車は厳禁する。
- (6) チームごとに試合のライブ配信をする場合は定められた場所で行うこと。

15. セーフティアシスタント (SA) について

- (1) SAは、試合前にレフリー及び、マッチドクターと互いに確認を行い、試合中の連携を心がける。
- (2) SAは、自チームだけでなく相手チームの負傷者にも対応する。自チームの左側サイドに待機すること。
- (3) SAは、必要に応じて試合中にグラウンドへ自由に入ることができる。
声援やプレーの指示は絶対に行わない。(選手の安全確保を考慮した指示を除く)
- (4) SAは、各大会の競技委員の指示に従って、SAビブスを着用する。
- (5) 原則としてSAは、自チーム帯同のSAが必要だが、どうしても困難な場合、事務局（大会開催まで）、大会本部（大会当日）へ事前に相談すること。
- (6) 各大会によりSA会議を当日設ける場合は、SAは必ず出席すること。
- (7) 試合中SAはベンチには入らず、所定の位置で負傷者への対応を最優先に行う。
- (8) 大会当日、セーフティアシスタント制度認定証を持参すること。

16. 試合中のウォーターブレイクについて

- (1) 試合中のウォーターブレイクは前半・後半共に、試合時間の半分を目安にレフリーの判断により行う。
- (2) トライ後などのウォーター給水を廃止する。
- (3) ウォーターブレイクはベンチに戻らず、ウォーター係（ビブス着用）がフィールド内にウォーターを持ち込む。
選手はタッチラインからの3mラインより外に出ないこと。
- (4) ウォーター係はフィールド内にウォーターを持ち込み、3m以上離れ待機する。
- (5) ウォーター係（ビブス着用）は控え選手（3名まで）が対応すること。スクイズボトルや水筒などの持ち運びの為、スクイズボトル入れやカゴ・カバンなどの活用を奨励する。キャリアカート等はグラウンド内使用不可の会場がある為、使用には必ず各運営委員会の指示に従うこと。
- (6) 12名以下のチームの場合に限り、ウォーター係をコーチが対応することを可能とする。
※控え選手の怪我等で例外に許可する場合がある。
- (7) ウォーター係からの選手への指示は禁止とする。

第18回 大樹生命ヒーローズカップ 安全対策規程

ヒーローズカップでは、安全を最優先とします。積極的に安全対策を行うことによって、危険の予知と予防、万が一の事故の際に適切な処置を出来る様にするため、各大会に関する安全対策規程を下記の通り定めることとします。

1. 安全対策に必要な人員

(1) 安全に試合を進行し、負傷や事故にすぐに対応できるように、下記の通りの安全スタッフを配置すること。

① マッチドクター

競技場の隣接する2グラウンドに対して、1名以上配置する。

協会登録の医務委員またはセーフティアシスタント (SA) 資格保有者が望ましい。

実行委員会によりマッチドクターの補助として、柔道整復師、トレーナーなどの資格者を配置することがある。

② セーフティアシスタント (SA)

各試合各チームから1名、セーフティアシスタント (SA) 資格保有者を選出する。

③ 競技委員

各試合に1名以上。安全なゲーム進行を見守る。

2. 試合環境の整備

(1) 水源の確認 (水道水および飲料水のチェック)。

(2) 氷の準備。

(3) 救急バグの準備。

マッチドクターと事前に確認を取り、運営側で準備をする。

〈内容物の目安〉テーピング用テープ、三角巾 (4枚以上)、はさみ (2本以上)、体温計 (2本以上)、綿花、単ガーゼ、消毒セット (ディスポ10本以上)、絆創膏、包帯、バンドエイド、コールドスプレー、ネット、弾力包帯、担架 etc

(4) ドクター待機場所の準備

医務室のない会場では、医務テントの設置が望ましい。

救急バグ・水・氷・AED (リースも可) を設置。

(5) 救急受け入れ医療機関の事前確認

当日、大会が行われることを付近の医療機関に事前連絡をして、救急受け入れ先を確認しておく。

(6) グラウンドの準備

複数グラウンドで同時に行う時は、競技区域の間隔を充分空ける。(タッチラインの共有はしない)

必ず試合前に、グラウンドおよび周辺を競技委員その他スタッフでチェックする。

3. 参加チームの安全対策について

(1) 各チームに安全対策委員 (安全推進講習会受講者または、セーフティアシスタント (SA) 資格保有者または、試合責任者) を選出し、チームの安全対策を実施すること。

(2) セルフチェックシートの利用や、健康診断の実施等、選手の体調管理を普段から行い、試合当日は保護者から選手の健康状態をヒヤリングして、選手の健康状態を充分に把握しておくこと。

(3) 体調に異常所見が認められる選手、体調不良の選手を出場させない。

(4) 安全第一で正しい指導を心がけること。危険なプレーにつながる言動を行わないこと。

(5) ラグビーに適した服装で試合に参加し、爪のチェックを行う。

(6) 試合後および試合の合間は、防寒具等を着用し体を冷やさないようにする。

(7) ウォームアップ・クールダウンを充分に行わせ、障害の予防をする。

(8) 安全プレーを推進し、タックルの基本姿勢、ラック・モールの姿勢を、充分に指導しておく。

4. レフリー

(1) 安全なレフリングを最重要とし、危険な反則に対しては特に厳しく対処する。

(2) 積極的にプリベントコールを行い、反則と危険を未然に防ぐ。

(3) コンタクトプレーにおいてバインドをするように指導する。ノーバインドによるコンタクトに対しては、事前に声をかけて予防し、もし発生したら単に反則を取るだけでなく、事後によく注意する。

(4) 体調不良、怪我等で継続不可と判断する選手には、プレーを続行させない。

<レフリングの指針>

1. 安全を最優先

スキルレベルが向上し、最新のスキルをコーチングされたプレーヤーが増えてきたとしても、小学生の大会として最重要である「安全性」を重視する。危険なプレーや危険な結果が予想されるプレーに対しては、トップレベルで容認されているプレーであっても、レフリーは笛を吹いてプレーを止め、ペナルティの判定またはイエローカード以上の対処をする。体格差が原因で危険な状態になる、または予想される場合も、「安全性」を最重要と考え、レフリングを実践する。

2. 厳格な判定

意図的に反則をし、ゲームを有利に進めて勝ちにつなげる行為は、小学生の大会ではあってはならないと考える。意図的な反則、反則の繰り返しに対してレフリーは厳しく判定し対処する。また、レフリーに対する暴言についても、プレーヤーだけでなく競技規則第10条8にもある通り、コーチやチーム関係者についても同様に厳しく対処する。

3. コンテストの正確な判定

安全を最優先し、不行跡・不当なプレー・意図的な反則を厳格に判定し、コンテストの正当性を追求していく。

安全とコンテストプレーのバランスを保ちながら判断、判定を正確に行い、楽しくプレーが継続できるようにレフリングを行う。

<レフリングガイドライン>

競技規則は、令和4年改訂版 U-12 ミニラグビー競技規則に準じる。

1. 危険なプレーについて（安全のために）

安全を最優先したゲームコントロールを行う。

- ① いわゆる「亀ラック」＝スクイズボール（U19.第15条15.5）→ 直ちにペナライズした上で注意をする
- ② ローヘッド（U19.第10条10.4 (t)）→ 直ちにペナライズした上で注意をする
- ③ 危険なプレー（第9条11-25）→ 直ちにペナライズした上で注意をする

2. キックオフ

正しいキックオフの遂行と、プレーが止まったときに素早い判定を行う。

- ① キックオフしたボールが5mを越えない → センタースクラム
- ② キックオフしたボールが直接タッチに出る → センタースクラム（ラインアウトのオプション有り）
- ③ ドロップキックで正しく蹴らなかった → やり直し → 状況に応じてセンタースクラム（フルラグビーのルールを基に）

3. スクラム

正しいスクラムの遂行と、スクラム解消時の正確な判定を行う。

- ① オフサイドの解消 → ハーフバックが手または足でボールに触れたとき
（ハーフバックが足を使って、投げやすい位置に動かすことも触れたと見なす）
- ② ハーフバックがボールに触る前に、攻撃側がオフサイドラインを越えて走り込みボールをもらう
→ オフサイドのペナルティを正しく判定
- ③ ゴールから5m未満では形成されない（ラインアウト・ペナルティも同様）
- ④ スクラムが終了するまでバインドさせる。（第20条20.1 (f)）
→ 注意してもバインドを外して飛び出したらペナルティ（第20条20.1 (a)）を適用
- ⑤ ボールインの確認・徹底 → 転がして入れるように指導
- ⑥ スクラムのフットポジションは平行であること → 平行にとるように指導
- ⑦ スクラムのレフリーのコーリングは「クラウチ、タッチ、ホールド、エンゲージ」の4段階であること

4. ラインアウト

正しいラインアウトの遂行と、ラインアウト解消時の正確な判定を行う。

- ① クイックスローは認めない
- ② バックスのオフサイド解消 → ラインアウトが解消（終了）したとき
- ③ 8mを越えて投げ入れる（ラインアウトに並んでいるプレーヤーが誰も触れていない場合）→ やり直し
- ④ 先頭に立つプレーヤーが、ボールが3m投げ入れられることを妨げる → 8mでフリーキック
- ⑤ ハーフバックがキャッチせずにワンバウンドになった場合 → ハーフバックが触れた時点で解消
- ⑥ ワンバウンドのボールをラインアウトプレーヤーが触れたとき → その時点で解消
- ⑦ タップしたボールがラインオブタッチから5mを越えたとき → その時点で解消
- ⑧ ハーフバックとラインアウトプレーヤーがポジションチェンジするのは可能。
ただし、スロワーがボールを投げ入れ、ラインアウトが開始されるときには、二人並んでいること。

5. ペナルティキック

キック時に特に注意して、正しいペナルティキックを遂行する。

- ① ボールを地面に置かないで蹴る → やり直し
- ② キックは明確に → いずれかの方向に蹴り進めること
- ③ 勢いよく走り込んでボールをもらうプレー → PKだがキックしてからスタートするように注意
- ④ ノット5mの2度目は、間をおいてポイントを示し5mを取らせてからプレーさせる

6. キック

一般のプレー中のキックに対し、正しい判定を行う。

- ① 地上にあるイーブンボールを意図なく蹴る行為（いわゆる「フライキック」U12競技規則第9条20 (h)）→ ペナルティ
- ② ダイレクトタッチ → 10mラインの外側から蹴った場合は、蹴った地点でスクラム。（U12競技規則第18条）
- ③ テイクインバックの適用 → あり（シニアと同じルール）蹴った地点でスクラム。
- ④ ハーフタイムやフルタイムで外へ蹴り出す → OK

第18回 ヒーローズカップに関する 個人情報及び肖像権に関わる取扱いについて

NPO法人ヒーローズ

特定非営利法人ヒーローズ（以下「NPO法人ヒーローズ」という。）は、大会参加申込書等を通じて取得する個人情報及び肖像権の取扱いに関して以下の通り対応します。

1 参加申込書に記載された個人情報の取扱い

- (1)大会プログラムに掲載することがあります。
- (2)競技会場内でアナウンス等により紹介されることがあります。
- (3)氏名・学校名・学年については、報道の正確性を期すため、大会開催前に報道機関に提供することがあります。
- (4)大会スポンサーに対して、提供することがあります。

2 競技結果（記録）等の取扱い

- (1)NPO法人ヒーローズ、又はこれらに認められた報道機関、大会スポンサー等により、新聞・雑誌及び関連ホームページ等で公開されることがあります。
- (2)競技会場内外の掲示板等に掲載されることがあります。
- (3)組合せ等の内容が大会関連ホームページに掲載されることがあります。
- (4)大会プログラム掲載の個人情報とともに、ヒーローズが作成する大会報告書（以下「報告書」という。）に掲載されることがあります。
- (5)記録、優勝及び上位入賞結果（記録）等は、次年度以降の大会プログラムに掲載されることがあります。

3 肖像権に関する取扱い

- (1)NPO法人ヒーローズに認められた報道機関や大会スポンサー等によって撮影された写真が、新聞・雑誌・報告書及び関連ホームページや、TVCM等で公開されることがあります。
- (2)NPO法人ヒーローズに認められた報道機関や大会スポンサー等によって撮影された映像が、中継・録画放映及びインターネットにより配信されることがあります。また、DVD等に編集され、配布されることがあります。
- (3)この他、NPO法人ヒーローズに許可を受けた写真撮影企業等によって撮影された写真等が販売されることがあります。

4 NPO法人ヒーローズの対応

- (1)取得した個人情報を前記利用目的以外に使用することはありません。
- (2)参加申込書の提出により、前記取扱いに関する御承諾をいただいたものとして対応させていただきます。
- (3)大会役員、競技委員、運営委員、その他各種委員や補助員、ヒーローズカップに関する契約をしている者、大会運営関係者及び会場に來られた観客の皆様につきましては、前記取扱いに関する御承諾をいただいたものとして対応させていただきます。

参 加 承 諾 書

第18回大樹生命ヒーローズカップは行き過ぎた勝利至上主義には明確に反対しています。

今後長く続くラグビー人生において、ヒーローズカップは最終目標ではなく、無理をして、無理をさせて大会に参加させる行為には、断固として反対をします。その上で、下記の内容にご承諾頂ける場合は、保護者よりご署名・捺印をお願い致します。

記

1. 選手自らが大会参加を望んでいること。
2. チームや仲間の為などとして指導者及び保護者が参加を強く求めないこと。
3. 怪我をしている、又は、テーピングなどで怪我をかばっての参加ではないこと。
4. 選手が過度な体重増減量や過密な練習で疲労が蓄積していない状態であること。
5. 選手として心身共に大会に参加できる万全の状態であることを確認し、保護者として承諾できる場合には、承諾書を提出する。

スクール名			
選手氏名		学年	年
保護者氏名		印	

ヒーローズカップは、優勝を目標とするが目的ではありません。
小学生が勝ったり負けたりする体験を通して、悔しさやうれしさを感じ、思いやる心が育まれ成長していくことを目的としています。

今日から、みんな友達。ラグビーファミリー！

相手チームの健闘をたたえたエール交換

<キャプテン>

Three cheers for
スリー チャーズ フォー
ラグビーフットボールチーム

<キャプテン>

hip! hip!
ヒップ!
ヒップ!

<全員で>

フレイ!
hooray!

<キャプテン>

hip! hip!
ヒップ!
ヒップ!

<全員で>

フレイ!
hooray!

<キャプテン>

hip! hip!
ヒップ!
ヒップ!

<全員で>

フレイ!
hooray!

アフターマッチファンクション

さあ、
大きな声で、元気よく！

第18回大樹生命ヒーローズカップ 全ての大会でベンチからの指示禁止

Challenge

第18回大樹生命ヒーローズカップの全ての大会で、キャプテンを中心に選手の主体性を促すため、**ベンチ及び観覧席からの指示は一切禁止**とさせていただきます。

ラグビーは本来、試合中の判断はゲームキャプテンが行います。監督・コーチは観客席から今まで教えてきたことを発揮してくれるであろうと信じながらゲームを見届けます。それは決してリーグワンや大学生だけではなく、小学生でもグラウンドにいざ立てば責任をもって判断し、プレーしてくれるはずです。

大人が信じてあげましょう。

『子どもたちの可能性を』『子どもたちのひらめきを』

ヒーローズカップは子どもたちの【主体性】を応援します。

ヒーローズカップの規約・レフリーガイドを定めるにあたって、出来る限り安全で公平であることを念頭において作成しました。ミニラグビーのレベルが上がるにつれて子どもたちのディシプリンも高くなり、ルールを守ることの尊さを知って、ルールがラグビー憲章という法の精神から出来ていると感じていると思います。ラグビー憲章の重要な精神は、プレーをすることの楽しさ、ゲームを観ることの面白さを尊重するものです。それは選手の自主的なプレー選択や、ルールを守るディシプリン、相手へのリスペクトによって成立します。指導者の方々には、公平で平等にゲームをする機会を得た選手達の自主性を尊重し、選手が存分に楽しむことを温かく見守って頂きたいと思います。レフリー・競技委員をはじめ、私たち大会役員全員は、選手が思う存分プレーを楽しんで、指導者・保護者の方々が観て喜び、全ての人が心から感動する大会になってほしいと願っております。

ヒーローズカップ実行委員会

タッチライン際の大人たちへ

ラグビーは試合になれば選手がすべてを判断してプレーするスポーツです。だからこそ、教育的価値が高いと認められているのです。コーチの仕事は選手が自分達で判断してプレーできるように育て、導くこと。親や観戦者はそれを温かく見守る。それがラグビーです。近年、ラグビー王国ニュージーランドですら、子どもたちの試合での野次や罵声が問題になっています。現状を憂い、「Let Kids Be Kids」というキャンペーンが行われています。子どもは子どもでいさせてあげてほしい。ミスを叱り、レフリーに文句を言うのではなく、その奮闘をサポートし、楽しい思い出を残してあげてほしい。そんな願いが込められています。子どもたちはボールを持って走り、パスし、タックルすることが楽しくて仕方がないのです。仲間と協力して戦い、試合が終われば相手チームと友達になる。それは美しい思い出になります。その記憶の中に、ひどい言葉を刻みつけないでください。子どもたちは大人の態度を見ています。子どもたちの自主性を重んじ、レフリー、相手チーム、両チームのサポーター、すべてをリスペクトしながら、子どもたちをサポートしてください。それがラグビー精神なのですから。



ラグビージャーナリスト 村上 晃一 氏

京都府立鴨沂高校→大阪体育大学。現役時代のポジションは、CTB/FB。86年度、西日本大学生代表として東西対抗に出場。87年4月ベースボール・マガジン社入社、ラグビーマガジン編集部勤務。90年6月より97年2月まで同誌編集長。出版局を経て98年6月退社し、フリーランスの編集者、記者として活動。